

この資料は、令和3年度中学校教科書の内容解説資料として、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

「新しい保健体育」では、性の多様性に配慮し、以下の章末資料を掲載しました。

◀p.144

章末資料

2. 性の多様性



- ・P.24【^{せいじく}生殖機能の成熟】
- ・P.28【異性の尊重と性情報への対処】

「男性」「女性」という生物学的な性と、「自分は男性である」「自分は女性である」という自分の意識(心の性)が一致しない人がいます。また、自分の心の性と違う性の人に関心をもつ人もいれば、同じ性の人に関心をもつ人もいます。

このように、性についての私たちの心は、とても多様です。



- ・生物学的な性：女性
- ・心の性：男性
- ・好きになる性：女性

高2のとき、自分の性のことをクラスの友だちに泣きながら打ちあげたら、すぐに「やっくんはやっくんだから、いいじゃん」といってくれた。それまで10年近く、自分で自分のことが気持ち悪かったし、生きる価値なんてないと思っていたから、「うおおーっ」ってさげびたいくらいうれしかった。ほかの友だちも、「いいんじゃない」といってくれて、ぼくの世界が変わった。生きている価値ってある、と思えるようになったんだ。

わたなべいしげかんと
渡辺大輔監修、ポプラ社「いろいろな性、いろいろな生き方③ありのままにいられる社会」より引用

Q なぜLGBTという言葉を使わなかったのですか？

A LGBTは、レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダー(体の性と心の性が一致しない人)の頭文字を取った単語で、セクシャルマイノリティ(性的少数者)の総称の一つです。LGBTという単語が知られるようになるにつれ、セクシャルマイノリティはL・G・B・Tの4パターンに分けられると認識する人も増えてきました。しかし、実際には、^{*}Q(クエスチョニング、クィア)、A(アセクシュアル)その他、多様なセクシャリティが存在します。そして、それらを含めて表現するために、LGBTでなく、LGBTQ、LGBTQ+などと表現する場合があります。このように、LGBTに関連する用語は、考え方や立場などによって少しずつ違い、新しい研究や知見などによって変化していく傾向にあります。

「新しい保健体育」では、大切なのは用語を覚えることやセクシャリティを分類することではなく、性は多様であることを理解し、「自分らしさ」「その人らしさ」を尊重できるようになることであると考え、あえてLGBTという言葉を使わず、セクシャルマイノリティの方の体験談を掲載しました。資料の「やっくん」は実在の人物です。資料を読んで、生徒が「自分がやっくんの立場だったら…」「自分がやっくんの友達だったら…」と考えを深めてくれることを願っています。

* Q クエスチョニング…自分の性自認や性的指向が定まっていない人。クィア…セクシャルマイノリティの総称。

A アセクシュアル…誰に対しても恋愛感情や性的欲求をもたない人。